

JAIR Newsletter

No. 177 October 2023

日本国際政治学会


<https://jair.or.jp/>

[目次]

巻頭言.....1	2024年度研究大会 部会企画・自由論題募集.....4
事務局からのお知らせ.....2	理事会便り.....5
2022～24 年期組織図・構成.....2	編集後記.....7

SDGs と二つの危機の時代の国際開発協力

高柳彰夫

2022年の研究大会の共通論題「国際規範の衰退とグローバルガバナンスの停滞」で「COVID-19 とウクライナ危機時代の SDGs と国際開発協力のガバナンス」と題する報告を行う機会をいただいた。今年 2023 年は、SDGs 実施（2016年-30年）の中間年に当たる。

2023年4月に OECD から発表された速報値（確定値で多少変動する）によれば、DAC メンバーの ODA（政府開発援助）の総額は 2,040 億米ドルで、前年比 13.6%増であった。対 GNI 比は 0.36%（前年は 0.33%）となった。増加の最大の要因は、ODA としてカウントできる（自国で受け入れた）難民支援(in donor refugee cost: IDRC)のウクライナ危機にともなう大幅増加で、IDRCを除いた ODA の伸び率は 4.6%であった。イギリスのように ODA は 6.7%増であったが、IDRC が 28.9%を占め、IDRCを除いた ODA 額は 16%減であったメンバーもある。DAC メンバー全体の対ウクライナ ODA は、例年の 10 億ドル前後から 161 億ドルに急増した。



COVID-19 関連（関連保健分野支援、復興支援、ワクチン支援など）の全 ODA に占める割合は、COVID-19 が落ち着くとともに 2021 年の 10.5%から 2022 年は 5.5%に減った。

対後発開発途上国(LDCs)向けの ODA は 0.7%減、サハラ以南のアフリカ諸国向けの ODA は 7.4%減となった。COVID-19 により SDGs の進捗状況が停滞や後退する中で、開発ニーズがもっとも大きい地域への ODA の減少は憂慮されることである。

2022年研究大会で途上国の開発に向けた資金の IDRC とウクライナ支援への転用が危惧されることを述べたが、統計を見るといくつかのヨーロッパ諸国で起きている。今後ウクライナ復興支援が国際開発協力の大きなテーマになる。2023年3月現在の世界銀行の推計ではその費用は 4,110 億ドルである。ODA は有力だが唯一でない財源である。

ODA 実績の推移とともに問題となることは、国際開発協力をどのような目的や動機で行うかである。ODA は DAC の定義から途上国の開発支援を「主たる目的」とするが、現実には開発・人道目的と、政治・外交・戦略目的や商業目的といった自己利益との競合で展開される。2つの危機の下で、ウクライナ危機や台頭する中国への対抗から「援助の安全保障化(securitization)」が、ポスト COVID-19 の経済再建が課題となる中で「援助の商業化(commercialization)」が進んでいる現実がある。

本稿執筆中にハマスのイスラエル攻撃が起きた。ウクライナ危機に加え、新たな人道危機の予感を感じる。長期的な開発目的と目の前の危機に対応した人道目的の両立はますます重要な課題であるし、国際開発協力をどのような目的や動機で行うかもますます議論されるだろう。国際開発協力研究の模索は続く。

事務局からのお知らせ

1. 新入会員の承認

第7回理事会（2023年9月9日開催）で入会申込書等が回覧され、計29名の新入会員が承認されました。会費の納入を持って正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいよう、お願いいたします。

2. 会計部スタッフのご就任

2023年10月1日付で、馬淵智美さんが新たな会計部スタッフに就任されました。

3. 会員登録情報更新のお願い

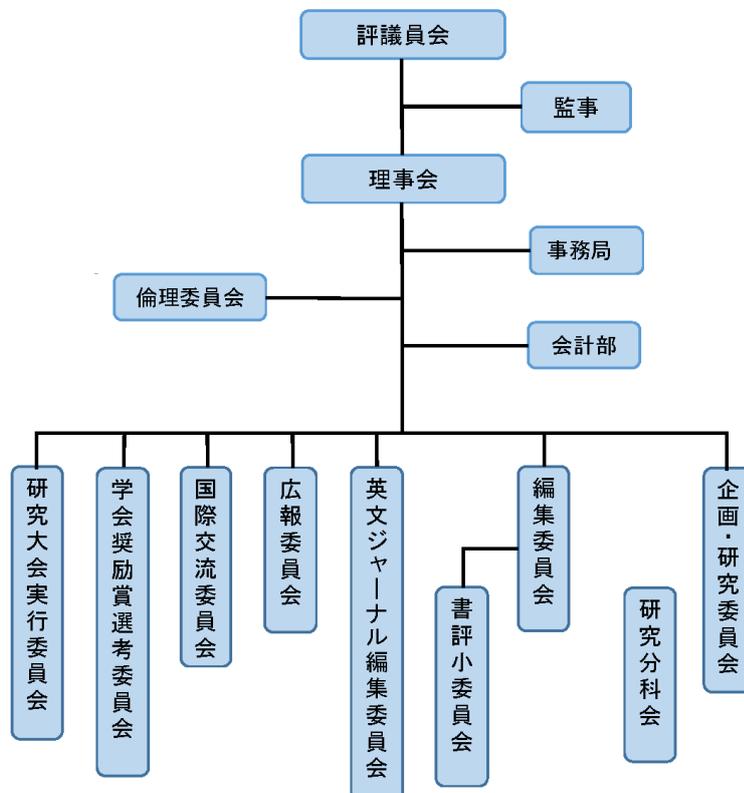
会員の皆様の所属機関や学会誌送付先住所に変更があった場合には、会員登録情報の更新をお願いいたします。皆様の学会活動の円滑化のため、メールアドレスの登録・更新にご協力ください。学会ウェブサイトの「会員データ変更」から「オンライン会員情報管理システム（e-naf）」に入り、修正・追加もしくは変更の申請を行っていただけます（<https://www.e-naf.jp/JAIR/member/login.php>）。

2022-2024年期待理事長 飯田敬輔
2022-2024年期待事務局主任 池内恵

2022～24年期待組織図・構成（2023年10月1日現在）

一般財団法人日本国際政治学会 組織図

[2023年10月1日現在]



一般財団法人日本国際政治学会 組織構成

評議員	赤木完爾、石田淳、遠藤誠治、大芝亮、太田宏、吉川元、國分良成、古城佳子、酒井啓子、佐々木卓也、田所昌幸、中西寛
監事	磯崎典世、山田敦
理事会	飯田敬輔（理事長）、遠藤貢（副理事長）、池内恵（常任理事）、井上正也、大島美穂、楠綾子、倉科一希、鈴木基史、都留康子、宮城大蔵、和田洋典
事務局	池内恵（主）、佐渡紀子（副）、鍛冶一郎（副）、吉本郁（副） 石田美貴（アシスタント）
会計部	都留康子（主）、葛谷彩（副） 馬淵智美（アシスタント）、渡邊祐美子（アシスタント）
倫理委員会	遠藤貢（主）、石川卓、中山裕美、向和歌奈、森井裕一
企画・研究委員会	大島美穂（主）、板橋拓己（副）、五十嵐元道、小阪裕城、下谷内奈緒、辻上奈美江、浜由樹子、牧野久美子、森田吉彦、湯川拓 研究分科会ブロックA幹事、B幹事、C幹事、D幹事
研究分科会	研究分科会代表幹事：齊藤孝祐 【ブロック幹事】 ブロックA（歴史系）：福田円、 ブロックB（地域系）：青木まき ブロックC（理論系）：齊藤孝祐、 ブロックD（非国家主体系）：古沢希代子 院生・若手研究：：細川真由
編集委員会	宮城大蔵（主）、井上正也（副）、大林一広（副）、柄谷利恵子（副） 『国際政治』編集担当者 研究分科会ブロックA幹事、B幹事、C幹事、D幹事
書評小委員会	柄谷利恵子（主）、大山貴稔、小浜祥子、河越真帆、小林昭菜、佐々木雄一、大道寺隆也、手塚沙織、藤山一樹、松尾昌樹、三船恵美
英文ジャーナル 編集委員会	鈴木基史（主）、廣野美和（副）、伊藤融、籠谷公司、片桐梓、鈴木一敏、Lai-Ha Chan、Mi Hwa Hong 編集スタッフ：氏家佐江子、桑原洋子
広報委員会	倉科一希（主）、和田洋典（副） 小林哲（アシスタント）
国際交流委員会	楠綾子（主）、林載桓（副）、杉之原真子
学会奨励賞 選考委員会	大津留（北川）智恵子（主）、大庭千恵子、川島真、清水耕介、戸田真紀子、村上勇介、毛利聡子
研究大会 実行委員長	2023年度 渡邊智明（福岡大会） 2024年度 中内政貴（札幌大会） 2025年度 中嶋啓雄（神戸大会）

研究分科会責任者連絡会議			
Aブロック（歴史系）		Bブロック（地域系）	
日本外交史	中島琢磨	ロシア東欧	長谷川雄之
東アジア国際政治史	福田円	東アジア	土屋貴裕
欧州国際政治史・欧州研究	小川浩之	東南アジア	青木まき
アメリカ政治外交	水本義彦	中東	千葉悠志
		ラテンアメリカ	浦部浩之
		アフリカ	矢澤達宏
Cブロック（理論系）		Dブロック（非国家主体系）	
理論と方法	松村尚子	国際交流	加藤恵美
国際統合	東野篤子	トランスナショナル	細田晴子
安全保障	栗田真広	国連研究	藤重博美
国際政治経済	三浦聡	平和研究	二村まどか
政策決定	齊藤孝祐	ジェンダー	古沢希代子
		環境	高橋若菜
院生・若手研究 細川真由			

2024 年度研究大会 部会企画・自由論題募集のお知らせ

2024 年度研究大会（札幌コンベンションセンター（札幌市）、2024 年 11 月 15～17 日）での部会企画の提案及び自由論題（部会）の報告希望を募集致します。応募に必要な事項は以下の通りです。応募に際して、報告者についての下記の内記を確認していただくようお願い致します。なお、部会（自由論題部会を含む）での報告者には、ペーパーの提出が義務づけられています。

締め切り：**2023 年 12 月 8 日（金）（必着）**

送付方法：応募は e-mail または郵送にてお願い致します。

(1) 送付先：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-18-24

津田塾大学総合政策学部 大島美穂

e-mail：oshima☆tsuda.ac.jp（☆を@に置き換えてください）

メールの件名または封筒に「日本国際政治学会 2024 年度研究大会部会企画・報告応募」と明記してください（郵送の場合は、学内の配達に時間を要するため、都内からでも投函翌日に届かないこともあるので、余裕を持って発送してください）。

(2) 応募に必要な事項

①部会企画案

(i) テーマ、(ii) 趣旨（800 字～1200 字程度）、(iii) 報告者（3 名程度）、司会者、討論者（2 名程度）などを記すこと。英語で実施する場合は、その旨も明記してください。

②自由論題報告案

(i) テーマ、(ii) 要旨（800 字～1200 字程度）などを記すこと。英語で実施する場合は、その旨を明

記してください。

③部会企画の提案者もしくは自由論題の報告希望者のいずれも、氏名、所属、職名、連絡先（住所、電話番号、e-mail アドレス）を記すこと。

応募用紙は、学会ウェブサイト (<https://jair.or.jp/committee/kikaku/9634.html>) からダウンロードできます。

部会参加に関して、以下の事項が内規に定められていますので、ご注意ください。

1. 部会参加者は、原則として、会員及び入会申請中の者とする。
2. 一般会員が、部会及び自由論題部会において報告を行う場合、応募時において過去 2 年間（2022 年度、2023 年度）に開催された研究大会の部会で報告を行った会員（申請中を含む）は報告者の候補たりえない。この原則は司会者及び討論者については適用されないものとするが、なるべく同じ会員の登壇は控えることとする。
3. 学生会員が、部会及び自由論題部会において報告を行う場合、応募時において過去 1 年間（2023 年度）に開催された研究大会の部会で報告を行う会員（申請中を含む）は、報告者の候補たりえない。この原則は司会者及び討論者については適用されないものとするが、なるべく同じ会員の登壇は控えることとする。
4. 自由論題部会にて報告を行う場合、上記の 2. 及び 3. に加え、応募時において過去 2 年間（2022 年度、2023 年度）に開催された研究大会の分科会で報告を行っていない会員（申請中を含む）、学生会員の場合は過去 1 年（2023 年度）の大会で報告していない会員が優先される。

企画・研究委員会主任 大島美穂

理事会便り

編集委員会からのお知らせ

1. 『国際政治』特集号（217 号）「国際関係への文化的アプローチ」の投稿募集を 2023 年 11 月 30 日まで延長します（これに伴って採否のご連絡も 12 月 31 日までとします）。

詳細は下記 URL をご覧ください（募集締め切りと採否の連絡は上記の日程となります）。

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/committee/no217recruit.pdf>

2. 『国際政治』特集号（218 号）の投稿募集を開始します。
『国際政治』218 号「転換期としての 1970 年代」（仮題）
山本健会員編集担当
申込締切：2024 年 4 月 30 日
原稿締切：2025 年 3 月 31 日

詳細は下記 URL をご覧ください

<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/committee/no218recruit.pdf>

原稿を提出する際の執筆要領はこちら。

<https://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

なお、独立論文の投稿は随時受け付けています。投稿の申込先などは『国際政治』各号の末尾に記載されているのでご覧ください。特集号、独立論文ともに、会員の皆様の投稿をお待ちしています。

編集委員会 主任 宮城大蔵
副主任 井上正也・大林一広
jair-edit@jair.or.jp
(☆を@に変えてください)

国際交流委員会からのお知らせ

1. 2023年度国際学術交流助成（第2回募集）への申請を公募しております。申請資格・助成対象・申請方法の詳細については、以下のページをご参照ください。申請用紙も本ページよりダウンロードいただけます。
<https://jair.or.jp/committee/kokusaikoryu/9605.html>
募集の締切は11月30日（木）、一橋事務所必着です。
2. 2023年度第1回国際学術交流助成は、審議の結果、水野良哉会員（London School of Economics and Political Science）、秋元悠会員（平和・安全保障研究所）への助成が決定いたしました。このうち International Summer School: Global History in the 2020s および European Congress on World and Global History に参加した水野会員より、報告書を提出いただきました。

国際交流委員会主任 楠 綾子

グローバルヒストリーとその方法論を巡って

水野良哉（London School of Economics and Political Science）

この度、日本国際政治学会の国際学術交流助成を頂き、International Summer School: Global History in the 2020sにおいて、“Toynbee in Japan: A Reassessment of His World History in Global Contexts in the Mid Twentieth Century”と題した報告を、また上記のサマースクールと関連する形で、グローバルヒストリーの国際学会である European Congress on World and Global History の一部会において、“Global History in the 2020s”と題した共同報告を行った（前者はライデン大学・ライデンキャンパス、後者はライデン大学・ハーグキャンパスでの開催）。

サマースクールでは、自身の研究課題として日本の歴史家によるイギリスの世界史家アーノルド・J・トインビー（1899-1975）の世界史概念の受容について報告した。具体的には、20世紀中葉の日本において影響力を持った歴史家（鈴木成高、江口朴朗、上原専禄）が、各々の異なる思想的・歴史的背景から、トインビーの非西洋中心主義的な世界史概念をどのように受容したか、さらには、そうした受容の背景・要因はどのようなものであったかを史学

史的に分析した。また以上の分析を通じて、異なる思想的・歴史的な背景を持ちつつも、日本の歴史家がトインビーの世界史概念を、西洋の知的世界における西洋中心主義への真剣な内省と捉えるとともに、新たな世界史像を展望する手がかりを提供するものと認識していたことを明らかにした。

またその後の国際学会においては、グローバルヒストリー（あるいは世界史）の方法論に関する共同報告に参加し、自身の報告やサマースクールでの成果を基にしながら、グローバルヒストリーという営みにおける立場性や政治性について言及した。トインビーの世界史概念や日本の歴史家によるその受容には、2度の世界大戦によるヨーロッパの相対的な衰退や2次大戦後の脱植民地化が示す、世界秩序の構造的変容という歴史的背景、またはそれに対する応答という面が存在していた。その点を踏まえ、現代の歴史家がグローバルヒストリーを叙述する際にも、特定の政治的・社会的文脈の下で、どのような意図や視点から歴史叙述を行っているのかを考慮する重要性を指摘した。

最後に、以上の研究活動をご支援頂いた日本国際政治学会と関係の先生方・事務の方々に心から感謝申し上げたい。特に一橋事務所の石田美貴さまには、様々な形で事務的な手続きについて手助け頂いた。改めてこの場を借りて御礼申し上げたい。

広報委員会からのお知らせ

学会ウェブサイトでは、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、ウェブサイトの「お知らせ投稿フォーム」(<https://jair.or.jp/membership/information/form.html>)をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要がありますので、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム（e-naf）」内に掲載されております。e-naf にログインいただきご確認ください。

その他、ニューズレターやウェブサイトに関してお問い合わせ等がありましたら、広報委員会（jair-pr☆jair.or.jp）にご連絡ください。（☆を@に置き換えてください）

広報委員会主任 倉科一希

■編集後記

いつになったら涼しくなるのかとやきもきしておりましたが、10月中旬を過ぎて急に涼しくなり、時には肌寒さを感じるようになりました。秋はどこに行ってしまったのか。気候変動を体感する今日この頃です。(IK)

大量のメールが飛び交いだと、いよいよ研究大会の時季だと実感する。久々に懇親会も開催される。あらためて同学の士が時空を共有することの意義に思いを致す機会になりそうだ。(HW)

ニューズレター167号(2021年4月)より掲載している「研究報告——国際政治研究の先端」について、会員みなさまからの投稿を募集しております。

募集要項などはウェブに掲載されておりますのでご参照ください。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.177
(2023年10月31日発行)

発行人 飯田 敬輔
編集人 倉科 一希・和田 洋典・小林 哲

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-29-1
一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究センター2階 客員教官研究室3

日本国際政治学会 一橋事務所気付
倉科 一希 jair-pr☆jair.or.jp